

こんにちは 2017年12月28日No.161 ちかざわ美樹です

日本共産党 市議会議員活動報告



☆自宅:日野市万願寺 6-35-9
カサベルデ 201
☎& fax 042-582-1870
☆ちかざわ事務所(三沢中学校
のそば) 日野市三沢 1-13-5
☎& fax 042-594-5184

いつでも、どんなことでもお電話下さい 携帯はこちら→090-9313-1192
なんでもご相談下さい メールアドレスはこちら→chikamiki222@gmail.com

ごみ広域化、工事は凍結し三市民で計画見直しの機会を

地元協議会ないまま工事を進める蛮行

12月議会の三つ目の質問は「新可燃ごみ処理施設は建設工事の凍結を！」です。

市が「これがなければこの事業は成功しない」と自ら言っていた『地元周辺協議会』はいまだにできていません。賛成の人も反対の人もおられる自治会は『中立』の立場をとっており、「広域化推進」の立場だけで議論をする『協議会』には参加することができません。ところが、市は新施設の工事を始めてしまっています。

反対の声を聞く段階は終わったと市長

私は、「反対する住民の方には見向きもしない、市のこの態度が住民の不信を高めている。これでどうやって住民の理解が得られると市は考えているのか？」とただしたところ市長は、反対の方の声を聞く段階は過ぎて、地元周辺協議会の方々と話を優先的に進める段階になった、それは間違っていないなどと、居直る様な答弁をしました。



市が自治会を分断する事は許されない

さらに市長は、今は『中立』の自治会も、最終的には協議会に加わる、そういう自治会になっていただくようはたらきかけていくなどと、自治会に市が介入するととれる発言をしました。

自治会は近所に住んでいるということだけを唯一の絆にして住民が地域をよくするために親睦を図り協力しあう組織です。自治会があえて『中立』の立場をとっているのは、少数の賛成の人と多数の反対の人との和を壊さないためです。

ところが市長は、『中立』の自治会にも「広域化推進」を前提にした『地元周辺住民協議会』に参加することを求めていくと言っています。こんなことをすれば自治会を分断することになってしまいます。それは、決してやってはならないことです。

日野市がいま行うべきは、工事をいったん凍結し、搬入路問題も含め、国分寺・小金井市民に日野市で起きていることの全容を知らせ、三市の市民の参画で、広域化計画について見直す機会をつくる事です。

ごみ広域化計画強行は許されません。工事を凍結して住民と話し合いを！

【日本共産党の無料法律相談】 第1.2.3木曜日予約制です
第1.3木曜日 18:00~20:00 第2木曜日 13:00~15:00



安全安心な日野・豊田駅を一日も早く！—JR東日本へ要請行動



JR東日本八王子支社の前で左から橋本さん、早川さん、岡田じゅん子室長、清水市議、ちかざわ、渡辺さん

12月17日(日)、JR東日本八王子支社へ、日野駅・豊田駅の改良を求める要請を行いました。

要請は岡田じゅん子日本共産党雇用とくらし相談室長、清水とし子市議、ちかざわ美樹、山添拓参院議員秘書の渡辺さん、「日野駅の改良を求める会」の橋本さん、岡田事務所員の吉川さん、早川さんが参加しました。

日野駅の改良は市議会でもたびたび取り上げられ、日野市もJRとの協議を続けてきましたが、2017年1月、日野駅周辺整備計画に関する基本調査を実施す

ることで日野市とJRが合意をし、今年度、現況調査、利用者の将来予測、規模の算定、複数の改良計画案構想策定を行い、課題整理を踏まえて2018年予備設計の実施、2019年度詳細設計の実施が予定されています。

要請では岡田じゅん子室長が日野駅前で行ったアンケートの結果や駅の写真を示し、日野駅混雑時のようすを詳細に報告し、計画への反映を求めました。清水市議は、視覚障害者の利用の多い豊田駅へ早急に安全柵を設置することを求めました。

JR東日本へ提出した要請項目は次のとおりです。

1. 日野駅の西口改札を早期に開設すること
2. ホームからの転落防止策としてホームドアを設置すること



東京民報は東京がよくわかる週刊新聞、月額 400 円、躍進した日本共産党都議団の情報も満載です。見本紙をご希望の方はすぐお届けします、ご遠慮なくご連絡下さい。しんぶん赤旗といっしょに配達・集金をします。ぜひ、ご購入を！

いのちがいはん 安倍政権による憲法改悪はNO！

昨日訪問したお宅の小学生のお子さんに「学童クラブ、人がたくさんいて、ぎゅうぎゅうじゃないですか？」と聞くと、「うん、いっぱい」と答えました。「本当にごめんなさい。一日も早く改善しますから。」と答えながら胸が痛みました。市は「市の課題の優先順位」と常に言いますが、子どもたちの成長は待ってくれません、「ちょっと待っててね」とは言えません。まして「財政が・・・」なんて、決して子どもたちに言い訳できません。子どもたちの代弁者として「最善の利益」（子どもの福祉に関する基本原則）の為にもっともっと頑張らなくては。来年も全力を尽くします。一年間、あたたかに私の活動を見守ってくださって頂き、本当にありがとうございました。



ちかざわ美樹